

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、CASBEE-建築2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)森林公園乗務管区新築工事	階数	地上2F
建設地	埼玉県比企郡滑川町	構造	S造
用途地域	準工業地域、防火指定なし	平均居住人員	55人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年7月 予定	評価の実施日	2019年9月2日
敷地面積	3,530㎡	作成者	田村賢敬
建築面積	1,754㎡	確認日	2019年9月2日
延床面積	2,726㎡	確認者	田村賢敬



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.7

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.7

LR のスコア = 2.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項		
総合	近隣住宅地の街並みに配慮し、建物高さを2階建てに抑えた。周囲の環境と調和するよう、隣接する食堂棟、独身寮と共通のデザイン、色調とした。壁面の素材は、リブのあるアスロックをグレーとベージュ色の塗装面をベースとして、アクセントに錆色の銅板、木目、タイル面を取り入れ、シックで落ちつきのあるデザインとした。事務室利用と女性用、男性用休憩室のゾーニングを明確にし、利便性に配慮した。	その他 特になし
Q1 室内環境	休憩室(専有部分)の昼光率に配慮し、F☆☆☆☆の建材を採用するなど、室内環境の向上に努めている。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内環境について、標準的な配慮を行っている。
LR1 エネルギー	共同住宅部分のBEI=0.96、事務所部分のBEI=0.51とし、建物の省エネルギー性能に配慮した設計としている。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率90%とし、敷地外環境について配慮した設計としている。
Q2 サービス性能	事務室(事務所部分)について、執務面積を広くとり、天井高や適切に窓を配置するなど、執務環境に配慮している。また、階高にゆとりを持たせ、壁長さ比率を低めに設計をしている。	
LR2 資源・マテリアル	事務所部分にLGS下地、OAフロアを採用し、その他の項目についても標準的な配慮を行っている。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版、CAS
(仮称)森林公園乗務管区新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、C
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
Q 建築物の環境品質									2.5
Q1 室内環境			0.40						2.8
1 音環境		3.0	0.15	3.0	1.00				3.0
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.46	3.0	0.50				
1.2 遮音		3.0	0.46	3.0	0.50				
1 開口部遮音性能		3.0	0.85	3.0	0.30				
2 界壁遮音性能		3.0	0.15	3.0	0.30				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	3.0	0.20				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	3.0	0.20				
1.3 吸音		3.0	0.07		-				
2 温熱環境		2.6	0.35	2.6	1.00				2.6
2.1 室温制御		3.0	0.50	3.0	0.50				
1 室温		3.0	0.53	3.0	0.63				
2 外皮性能		3.0	0.33	3.0	0.38				
3 ソーン別制御性		3.0	0.14		-				
2.2 湿度制御		1.0	0.20	1.0	0.20				
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30				
3 光・視環境		2.3	0.25	3.1	1.00				2.5
3.1 昼光利用		1.8	0.30	3.5	0.30				
1 昼光率	専有部分:1.76%	1.0	0.60	4.0	0.50				
2 方位別開口			-	3.0	0.30				
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20				
3.2 グレア対策		2.0	0.30	3.0	0.30				
1 昼光制御		2.0	1.00	3.0	1.00				
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15				
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25				
4 空気質環境		3.5	0.25	3.6	1.00				3.5
4.1 発生源対策		4.0	0.56	4.0	0.63				
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆の建材をほぼ全面的に使用している	4.0	1.00	4.0	1.00				
4.2 換気		3.0	0.36	3.0	0.38				
1 換気量		3.0	0.44	3.0	0.33				
2 自然換気性能		3.0	0.12	3.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.44	3.0	0.33				
4.3 運用管理		3.0	0.07		-				
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50		-				
2 喫煙の制御		3.0	0.50		-				
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-				2.8
1 機能性		2.6	0.40	2.6	1.00				2.6
1.1 機能性・使いやすさ		3.2	0.40	3.0	0.60				
1 広さ・収納性	一人あたりの執務面積20.2㎡	5.0	0.12		-				
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.12	3.0	1.00				
3 バリアフリー計画		3.0	0.75		-				
1.2 心理性・快適性		1.6	0.30	2.0	0.40				
1 広さ感・景観	事務所部分:天井高2.7m、適切な位置に窓を配置	4.0	0.12	3.0	0.50				
2 リフレッシュスペース		3.0	0.12		-				
3 内装計画		1.0	0.75	1.0	0.50				
1.3 維持管理		3.0	0.30		-				
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50		-				
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50		-				
2 耐用性・信頼性		2.8	0.30		-				2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50		-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-				
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-				
2.2 部品・部材の耐用年数		2.5	0.30		-				
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20		-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		2.0	0.10		-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10		-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20		-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20		-				
2.4 信頼性		3.0	0.20		-				
1 空調・換気設備		3.0	0.20		-				
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20		-				
3 電気設備		3.0	0.20		-				
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20		-				
5 通信・情報設備		3.0	0.20		-				

3 対応性・更新性			3.1	0.30	3.2	1.00	3.1
3.1 空間のゆとり			4.0	0.11	3.4	0.50	
1	階高のゆとり	階高にゆとりを持たせた設計	4.0	0.60	5.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	事務所部分:壁長さ比率0.209	4.0	0.40	1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.11	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	0.78		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40		-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30		-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			1.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-		-	2.8
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	2.9
1 建物外皮の熱負荷抑制			事務所部分BPI _m =0.56	3.7	0.20		3.7
2 自然エネルギー利用				3.0	0.10		3.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEI _m] = 0.96	2.7	0.50		2.7
4 効率的運用				3.0	0.20		3.0
集合住宅以外の評価				3.0	0.37		
4.1 モニタリング				3.0	0.50		
4.2 運用管理体制				3.0	0.50		
集合住宅の評価				3.0	0.63		
4.1 モニタリング				3.0	0.50		
4.2 運用管理体制				3.0	0.50		
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.7
1 水資源保護			3.0	0.20		-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.6	0.60		-	2.6
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			1.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			事務所部分:LGST下地、OAフロアを採用	4.0	0.20		-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70		-	
1 消火剤			-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50		-	
3 冷媒			3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮			ライフサイクルCO2排出率90%	3.3	0.33		3.3
2 地域環境への配慮				2.4	0.33		2.4
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25		
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50		
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25		
1 雨水排水負荷低減				3.0	0.25		
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25		
3 交通負荷抑制				3.0	0.25		
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25		
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33		-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1 騒音			3.0	1.00		-	
2 振動			-	-		-	
3 悪臭			-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40		-	
1 風害の抑制			3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制			3.0	-		-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70		-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30		-	

CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	(仮称)森林公園乗務管区新築工事	BEE	0.7	BEEランク	★★
------	------------------	-----	-----	--------	----

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
3.3	+	2.0	=	5.3	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上	すばらしい 8.0以上		
	 	  	   		

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO2の削減		スコア平均	3.3
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.3
ライフサイクルCO2排出率82%			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	2.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	1.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	2.0

 : 入力欄